

学校だより

7月号

令和3年(2021年)6月30日

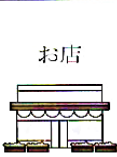





豊中市立豊島小学校



すくすくテスト(愛称すくすくウォッチ)について

5月に5年生・6年生で実施した「すくすくテスト」を振り返ってみたいと思います。すくすくテストは、例年行われる6年生対象の「全国学力学習状況調査」とは別のもので、大阪府の子どもたちの課題に着目した大阪府独自の取り組みとなっています。では、どのような力をつけることを目標としているのか、「わくわく問題」(教科横断型)からいくつか問題を取り上げてみます。

◆◆◆「食品ロス」をテーマにした問題◆◆◆

「日本は食品ロスが多い」(世界で6位、アジアで1位)という紹介があります。次に、「食品ロス」についての資料1が示されます。

	平成28年	平成29年
 お店	食べ物に関わるゴミ 1970 万トン  そのうち食品ロス 352 万トン	食べ物に関わるゴミ 1767 万トン  そのうち食品ロス 328 万トン
 家庭	食べ物に関わるゴミ 789 万トン  そのうち食品ロス 291 万トン	食べ物に関わるゴミ 783 万トン  そのうち食品ロス 284 万トン

 …食べることができないもの  …食べることができるもの

問題(1) 資料1からわかることとして正しいものを1つ選びましょう。

- ア. 家庭から出る食べ物に関わるゴミの量は、平成28年から平成29年の1年で7万トンへっている。
- イ. お店と家庭の食品ロスの量の合計は、平成28年から平成29年の1年で、30万トン以上へっている。
- ウ. 平成28年に家庭から出る食べ物に関わるゴミの量のうち、400万トン以上が食べることができる食品である。
- エ. 平成29年にお店と家庭から出る食べ物に関わるゴミの量の合計のうち、食品ロスの量は半分以上である。

資料はとてもシンプルですが、ここからその意味を理解しないと問題は解けません。資料を読み取る力、文章を読み取る力、また、2つの年のゴミの量を比較することになりますが、そのためには計算する力も必要です。 ⇒答えはイです。

問題（2）食品ロスが家庭からもたくさん出ていることを知り、グループで話し合っています。【話し合いの様子】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子】



はると

家庭での食品ロスは、思った以上に多いなあ。わたしの家では料理を作りすぎて、食べきれずにすててしまって食品ロスを出していることが多いんだ。どうやったらへらすことができるかな。

料理を作るときに、食べきれる量を作るように気を付けたらいいんじゃないかな。



あきら



カルロス

それでも作りすぎてしまったときは、冷とう庫に保冷して別の日に食べれば、すてなくてすむよね。

わたしの家では家にある食品をまた買ってくるから、結局使いきれずにすててしまって、食品ロスになることが多いみたいなの。



ふゆみ

ふゆみさんが話している食品ロスをへらすためには、どうしたらよいですか。【話し合いの様子】で出された方法以外の内ようを考えて書きましょう。

答えは自由に書けます。ただし、ふゆみさんの話に合わせた答えでないといけません。相手の話を聞き理解し、それを受けて答える力が必要です。また、相手を納得させるためには、理由や根拠をはっきり伝えなければなりません。何よりもこういったことに関心があるか、普段から自分で考える習慣があるかも大切です。
⇒答えは、「買ったものリストや賞味期限をメモしておき、同じものを買わないようにしたり、賞味期限内に使い切るようにしたりする」などが考えられます。

◆◆◆ぶどう農家をテーマにした問題◆◆◆

動画（資料1）

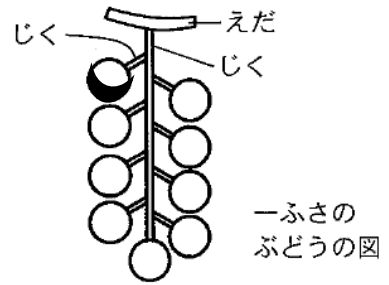


問題（1）

インターネットでぶどう農家の人にインタビューをしている動画（資料1）が見つかりました。

農家の人と同じふさのぶどうの中で最もあまいと言っているのはどの部分ですか。ぶどうの図に色をぬってしめしましょう。

農家の人との会話から、どの部分があまいのか読み取る力、そしてそれを具体化(聞いたことをイメージする)する力が必要です。
⇒色をぬるのはほんの少し! 枝に一番近いついで、その中でも枝から遠い部分です。



以上、「わくわく問題」をいくつか紹介しました。

では、なぜこのような問題を解くのか。それは、大阪府の子どもたちに共通した課題があるからです。それは、言語能力です。6年生の「学力学習状況調査」においても、大阪府の子どもたちには顕著に国語に課題があることがわかっています。

国語はすべての学力の土台になります。また、相手の話を聞き、理解し、自分の考えを伝えるなど、コミュニケーションにもかかせないものです。

しかし、読む力や考える力は短期間では身につかないものです。低学年からの積み重ねが大切になります。

豊島小学校では、国語の教科を研究テーマとして取り組んでいます。課題は何か、国語を通じて子どもたちにどのような力をつけたいのか、次回以降に紹介していきます。

すすくすくテストの結果については、8月に個票を返却する予定です。その結果をもとに子どもたちの課題をあらためて整理したいと思います。